

第 66 回漁業懇話会講演会プログラム

「東日本大震災からの漁船漁業の復興－現状と課題」

日 時 : 平成 27 年 9 月 22 日 (火) 13:00～17:00

場 所 : 東北大学川内北キャンパス (〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41)

企画責任者: 山川 卓 (東大院農)・藤田 薫 (水研セ水工研)・片山知史 (東北大院農)・
山下秀幸 (水研セ開発調査セ)

13:00～13:02 開会の挨拶 山川 卓 (東大院農)

13:02～13:10 趣旨説明 山川 卓 (東大院農)

I. 全体の概要および地域別の復興の現状と課題 座長 片山知史 (東北大院農)

13:10～13:35 全体の概要－水産業復興に向けた現状－ 桑原 智 (水産庁漁業調整課)

13:35～14:00 岩手県における復興の現状と課題 後藤友明 (岩手水技セ)

14:00～14:25 宮城県における復興の現状と課題 小林徳光 (宮城県農林水産部)

14:25～14:50 福島県における復興の現状と課題 江部健一 (福島水試)

14:50～15:00 休 憩

II. セクター別の復興の現状と課題 座長 山下秀幸 (水研セ開発調査セ)

15:00～15:15 さんま棒受網漁業の復興の現状と課題

大石浩平 (全国さんま棒受網漁業協同組合)

15:15～15:30 いか釣り漁業の復興の現状と課題 武下太郎 (全国いか釣り漁業協会)

15:30～15:55 流通販売の拠点－産地魚市場の復興の現状と課題－

須能邦雄 (石巻魚市場 (株), 宮城県産地魚市場協会)

15:55～16:05 休 憩

16:05～16:55 総合討論 座長 藤田 薫 (水研セ水工研)

16:55～17:00 閉会の挨拶 藤田 薫 (水研セ水工研)

企画の趣旨

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災から 4 年半が経過した。本講演会では、東日本大震災の被害から沿岸および沖合の漁船漁業がどのように復旧・復興してきたか、その現状と課題について、それぞれの立場で尽力してきた方々から話題提供をいただき、漁業関係者および日本水産学会員の間で情報の共有化を図ることを目的とする。地域別、セクター別の漁船漁業の復旧・復興の過程と現状はどうか、復興過程において「がんばる漁業復興支援事業」や「共同利用漁船等復旧支援対策事業」などの各種支援事業が実際、現場でどのように活用され機能してきたか、また、復興における今後の課題は何かなどについて議論する。

平成27年度日本水産学会水産増殖懇話会第2回講演会

「水産増養殖で地域興し ～ 基礎研究から産業応用へ ～」

日 時 : 平成27年9月25日(金) 13:30～17:00

場 所 : 東北大学川内キャンパス 第2会場(406)

企画責任者: 都木靖彰(北海道大学)

参加費: 無料

*日本水産学会会員以外の方も無料で参加いただけます。

13:30-13:40 開会の挨拶

13:40-14:10 北海道産チョウザメ養殖産業化の現状と展望

足立伸次(北海道大学大学院水産科学研究院)

14:10-14:40 宮城県の地域ブランド「伊達いわな」について

永島 宏(宮城県水産技術総合センター気仙沼水産試験場)

14:40-15:10 過疎に悩む地域を救うか?『温泉とらふぐ』

野口勝明((株)環境生物化学研究所 (株)夢創造)

15:10-15:20 休憩

15:20-15:50 福井県九頭竜川のアラレガコ(カマキリ) 伝統文化～養殖魚による食文化再生～

田原大輔(福井県立大学海洋生物資源学部)

15:50-16:20 柑橘類と養殖魚の掛け合わせによる地域のブランド養殖魚の創出

深田陽久(高知大学教育研究部自然科学系農学部)

16:20-16:50 佐賀県唐津市における新水産資源創出研究プロジェクト

松山倫也(九州大学大学院農学研究科)

16:50-17:00 閉会の挨拶

企画の趣旨

2014年5月に民間団体から発表された「消滅可能性都市」のレポートが世間を騒がせたように、地方都市からの若者人口の流出と、地方住民の高齢化は大きな社会問題となっている。昨年政府が取りまとめた『まち・ひと・しごと創生総合戦略』にも、人口減少と地域経済縮小の悪循環というリスクを克服する観点から、「地方における安定的な雇用の創出」「地方への新しいひとの流れの創出」「地域の特性に応じた地域づくりと地域間の連携」等が謳われている。その産業の現場を「地方」にもつ水産業は、地域の雇用の創出や地域づくりに貢献できる可能性を持つ。しかし、今の我国水産業は「地方」の衰退と足並みを揃えて縮小してゆく傾向にあると言わざるを得ない。この現状を打破するには、月並みな言葉であるが、水産業の「イノベーション」が必要なのだろう。そして、その引き金をひくのは(引かなければならないのは)水産系の大学・学部や水産研究所、水産試験場の研究者であると思われる。本シンポジウムは、水産学研究の拠点で産み出された研究成果を産業化し、水産業を活性化して地域振興に結びつけてゆくにはどうしたらよいか、を考える契機とするために企画した。参加者の皆様に、成功例や失敗談、産業化をおこなう上での問題点、こうあってほしいという将来像なども含めてフランクに語っていただき、情報を共有する場としたい。

<平成 27 年度秋季水産学会水産環境保全委員会企画研究会>

東北・北海道沿岸における東日本大震災以後の貝毒の問題

日時： 2015 年 9 月 25 日（金）13 時～17 時 30 分

場所： 東北大学 川内北キャンパス 講義棟 A 棟 第 4 会場（A404）

主催： 水産環境保全委員会

企画責任者： 今井一郎（北大院水）・西谷 豪（東北大院農）・横山勝英（首都大）

プログラム

- 13:00-13:05 開会挨拶 水産環境保全委員会委員長
- 13:05-13:10 趣旨説明 今井一郎（北大院水）
- 13:10-13:40 「東日本大震災による津波被害の状況と海水・海底への影響
－宮城県気仙沼湾での調査事例－」
横山勝英（首都大）・吉永郁生（鳥取環境大）・
畠山 信（NPO 森海）・田中 克（舞根研）
- 13:40-14:10 「宮城県仙台湾の *Alexandrium* 属シストの分布に及ぼした津波の影響」
神山孝史（水研セ東北水研）・山内洋幸（宮城水技セ気仙沼水試）・
長井 敏（水研セ中央水研）・山口峰生（水研セ瀬戸内水研）・
阿部博和（水研セ東北水研）
- 14:10-14:20 休 憩
- 14:20-14:50 「北海道噴火湾における津波前後の *Alexandrium* 属シストの挙動」
夏池真史（東工大院理工）・金森 誠（函館水試/北大院水）・
馬場勝寿（道総研）・森部和臣（北大水）・山口 篤（北大院水）・
今井一郎（北大院水）
- 14:50-15:20 「岩手県沿岸域における有毒プランクトンの挙動と貝毒の問題」
加賀新之助（岩手県水技セ）
- 15:20-15:50 「東日本大震災後の宮城県気仙沼湾における *Alexandrium* 属プランクトンの
分布パターン」
石川哲郎（気仙沼水試）・日下啓作（宮城水基課）・
押野明夫（宮城水技セ）・西谷豪（東北大院農）・
坂見知子・神山孝史（水研セ東北水研）
- 15:50-16:00 休 憩
- 16:00-16:30 「高密度の有毒プランクトンのシストを含む表層海底泥の除去による貝毒発生リスク
低減の可能性」
峰 寛明（株式会社エコニクス）
- 16:30-17:00 「寄生性真核微生物は貝毒対策の救世主となるか？」
山口峰生・坂本節子（水研セ瀬水研）・木村圭（佐賀大低平セ）・
加賀新之助・加賀克昌・内記公明（岩手水技セ）
- 17:00-17:25 総合討論
- 17:25-17:30 閉会挨拶 水産環境保全委員会委員長

開催趣旨

2011年3月の東日本大震災による巨大津波によって海洋環境は大きく攪乱され、4年半が経過した。特に震災による影響の大きかった宮城県や岩手県沿岸部では、震災以降に貝毒の原因となる有毒プランクトンの発生規模と頻度が急激に増加し、それに伴う漁業被害が拡大している。本研究会では、津波の影響の大きかった各海域におけるその後の変化と現状を総括すると共に、震災以降に貝毒被害が拡大した原因や発生機構について整理し、被害の軽減を目指した対応策について議論することを目的とする。

問い合わせ先

981-8555 宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町 1-1 東北大学大学院農学研究科
日本水産学会水産環境保全委員会 幹事 西谷 豪
TEL: 022-717-8733 FAX: 022-717-8734 E-mail: ni5@bios.tohoku.ac.jp

The 3rd Joint Symposium of Japan-Korea-China on Fisheries Science

“Current status of research on fishery resources in East Asia”

September 25th (Fri), 2015, Sendai City

- 9:30-9:40 Opening remark: Shuichi Satoh (TUMSAT)
- 9:40-10:10 Jung Nyum Kim (NFRDI): Chirostylid and Galatheid crustaceans
(Decapoda: Anomura) of Korea
- 10:10-10:40 Huang Shoulin (Shanghai Ocean Univ.): Recent developments of Chinese fisheries
- 10:40-11:10 Wongyu Park (Pukyong National Univ.): Population structure and life history of *Neomysis awatschensis* (Crustacea: Mysidae) in Jeju Island, Korea
- 11:10-11:40 Hee Yong Kim (NFRDI): Change of bio-physical environment in the period of coastal recruitment of jack mackerel, *Trachurus japonicus*
- 11:40-12:10 Satoshi Katayama (Tohoku Univ.): Fluctuation pattern and fisheries management strategies of coastal resources
- 12:10-13:00 Lunch Break
- 13:00-13:30 Zhong Junsheng (Shanghai Ocean Univ.): The importance of the early fishery resources protection in the Yangtze Estuary and adjacent sea area
- 13:30-14:00 Hiroshi Okamura (FRA): Fisheries stock assessment and management in Japan
- 14:00-14:30 Dai Xiaojie (Shanghai Ocean Univ.): Catch rate and stock analysis of blue shark in the Pacific Ocean with Chinese fishery data
- 14:30-15:00 Tomowo Watanabe (FRA): Radioactive cesium in marine organisms around Japan
- 15:00-15:30 Open discussion
- 15:30-15:40 Closing remark: Atsushi Hagiwara (Nagasaki Univ.)

<シンポジウム>

東日本大震災からの復興・再生に向けた新たな水産業の創成につながる新技術開発

日時・場所：平成 27 年 9 月 25 日（金） 10：00～17：00 第 5 会場

企画責任者：竹内 俊郎（海洋大）・佐藤 實（東北大院農）・渡部 終五（北里大海洋）

- 10：00～10：10 趣旨説明 竹内 俊郎(海洋大)
- I. 地域再生 座長：竹内 俊郎(海洋大)
- 10：10～10：45 1. 排熱を活用した小型メタン発酵による分散型エネルギー生産と
地域循環システムの構築 多田 千佳(東北大院農)
- 10：45～11：20 2. 漁場再生ニーズに応える汚染海底浄化システムの構築 荒川 久幸(海洋大院)
- 11：20～11：55 3. 東北サケマス類養殖事業イノベーション 潮 秀樹(東大院農)
- 11：55～13：00 休 憩(昼休み)
- II. 海藻の利用 座長：渡部 終五(北里大海洋)
- 13：00～13：35 1. 三陸における特産海藻類の品種改良技術開発と
新品種育成に関する拠点形成 福西 暢尚(理研)・佐藤陽一(理研食品)
- 13：35～14：10 2. 三陸産ワカメ芯茎部の効率的なバイオエタノール変換技術
開発と被災地復興への活用方法の提案 浦野 直人(海洋大院)
- 14：10～14：45 3. 三陸沿岸域の特性やニーズを基盤とした海藻産業イノベーション
宮下 和夫(北大院水)
- 14：45～15：00 休 憩
- III. 新規食品の開発 座長：婁 小波(海洋大院)
- 15：00～15：35 1. 高度冷凍技術を用いた東北地区水産資源の高付加価値推進 鈴木 徹(海洋大院)
- 15：35～16：10 2. 電磁波を水産物加工に用いた新規食品製造技術開発 佐藤 實(東北大院農)
- 16：10～16：15 休 憩
- IV. 総合討論 座長：婁 小波(海洋大院)
- 16：15～16：50
- 16：50～17：00 閉会の挨拶 佐藤 實(東北大院農)

企画の趣旨

東日本大震災からすでに 4 年が経過し、これまで様々な復興・再生に向けた取り組みが行われてきた。この間、本学会のみならず、各省庁や機関においてそれぞれ精力的に進められてきたが、その中で、水産業の再生に向けた取り組みとして、文科省が実施している東北マリンサイエンス拠点形成事業がある。本事業は大きく二つに分かれているが、その 1 つである「新たな産業の創成につながる技術開発」については本年度で終了する運び

となった。最終年のこの時期に、被災地の東北で開催される学会のシンポジウムとしてふさわしい内容と考え企画した。特に、今回取り上げる水産業の新たな創成を目指した新技術開発では、実用化に向けた様々な取り組みがあることから、本シンポジウムではそれらについて講演するとともに、現地の企業など様々な方々との意見交換を行い、新産業創生を図る手立てを模索したい。

<ミニシンポジウム>

フグ食の安全性確保—日本沿岸フグ類の分類と毒性の見直し

日時・場所：平成27年9月22日（火） 14：00—17：00 第4会場

企画責任者：長島裕二（海洋大）・荒川 修（長大院水環）

プログラム

| | | |
|-------------|-------------------|--|
| 14：00～14：05 | 開会の挨拶 | 長島裕二（海洋大） |
| | | 座長 浅川 学（広大院生物圏） |
| 14：05～14：30 | 1. 日本沿岸にみられるフグの分類 | 松浦啓一（国立科博） |
| 14：30～14：55 | 2. 交雑フグの毒性 | 高谷智裕・荒川 修（長大院水環）・ 鈴木重則（水研セ増殖研）・ 望岡典隆（九大院農） |
| 14：55～15：20 | 3. 沖縄地区のフグの毒性 | 大城直雅（国立衛研） |
| | | 座長 松本拓也（県立広島大） |
| 15：20～15：45 | 4. 東北地区のフグの毒性 | 佐藤 繁（北里大海洋） |
| 15：45～16：10 | 5. 日本産フグの毒成分 | 山下まり（東北大院農） |
| 16：10～16：35 | 6. 日本におけるフグの安全性確保 | 齊藤恵子（厚労省監視安全課） |
| 16：35～16：55 | 総合討論 | 座長 西尾幸郎（四国大短） |
| 16：55～17：00 | 閉会の挨拶 | 荒川 修（長大院水環） |

企画の趣旨

近年、熱帯・亜熱帯海域に生息するドクサバフグの日本沿岸での出現とそれに伴うフグ中毒の発生、従来の毒性を超えるフグの高毒性化、麻痺性貝毒によるフグの毒化、交雑種フグの頻出など、フグ食の安全性を脅かす新

たな問題が浮上してきた。そこで、本ミニシンポジウムでは、日本産フグ類の分類と毒性に関する最近の知見をとりまとめ、現状の問題点やそれに対応した近未来のフグ食のリスク管理について議論する。

<ミニシンポジウム・水産教育推進委員会共催>

水産分野のキャリア教育：次世代育成の緊急性と今後の課題

日時・場所：平成27年9月22日（火）13:00-16:30 第8会場

企画責任者：荒井克俊（北大院水）・小島隆人（日大生物資源）・神保 充（北里大海洋）・天野勝文（北里大海洋）・
窪川かおる（東大院理）・内田圭一（海洋大）

- | | | |
|-------------|---|-------------------|
| 13:00～13:05 | 開会の挨拶 | 荒井 克俊（北大院水） |
| | | 座長 小島 隆人（日大生物資源） |
| 13:05～13:30 | 1. 北里大学における岩手県と神奈川県での水産教育の展開 | 高橋 明義（北里大海洋） |
| 13:30～13:55 | 2. 東北大学における水産教育と高大連携の現状 | 落合 芳博（東北大院農） |
| | | 座長 窪川 かおる（東大院理） |
| 13:55～14:20 | 3. 高等学校における水産教育と社会に果たしてきた役割 | 滝田 雅樹（文科省初等中等教育局） |
| 14:20～14:45 | 4. 宮城県石巻における水産教育の現状と発展 | 油谷 弘毅（宮城県水産高校） |
| 14:45～15:00 | 休憩 | |
| | | 座長 内田 圭一（海洋大） |
| 15:00～15:25 | 5. 漁業後継者確保育成への新たな取り組みと課題―「心」の繋がりを大切にする原点回帰― | 吉田鶴男（宮城県北部船主協会） |
| 15:25～15:50 | 6. 福島県における水産教育 ～ふくしまの今を次世代に伝える試み～ | 平川直人（福島県水産事務所） |
| 15:50～16:25 | 総合討論 | 座長 天野 勝文（北里大海洋） |
| 16:25～16:30 | 閉会の挨拶 | 小島 隆人（日大生物資源） |

企画の趣旨

漁業養殖業への就労者の減少が著しい中、水産庁は漁師を目指す人材育成のための支援制度を2002年から導入している。また、文科省でも「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の在り方」が議論されるようになり水産系大学では高大連携も推進されているところである。

高校では水産高校の統合化や名称変更が進み、水産高校の教員の人手不足が問題となっている。このような現状を把握し、初等中等教育・大学・水産業におけるキャリア教育を理解し、これらの取り組み推進への日本水産学会のかかわり方、さらに今後の展開について議論する。